会議名	令和６年度第１回坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
開催日時	令和６年８月２８日（水）　午前１０時～
開催場所	坂出市役所本庁舎　２階大会議室
出席委員	長谷川 修一、國時 忠能、中井　今日子、多田　篤史、中橋 恵美子、 橋崎 正伸、林　陽子

会議の経過および発言要旨

１．開会

２．議題

（１）デジタル田園都市国家構想交付金事業等実施報告について

（２）第２期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略のＫＰＩ達成状況について

（３）第３期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定方針について

（４）坂出市人口ビジョンの見直しについて

（５）まちづくりワークショップの開催について

●会長

それでは、議題（1）デジタル田園都市国家構想交付金事業等実施報告について、事務局より説明願いたい。

○事務局

（資料１－１、１－２、１－３により説明）

●会長

ただいまの説明について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

●委員

Ｂｉｚの関係で教えてほしいのだが、こちらが立ち上がる際、必要性を含めて理解はしていたが、数年間継続する中で、相談件数が上がっているが、成果についてどのように決めているのか教えてほしいのと、資料１－１の「４．事業の成果および今後の方針」の中で記載はあるかもしれないが、「センター長の前年度末での辞任に伴い、センター長不在期間が約６カ月生じてしまった」ということもあるため、Ｂｉｚをスタートした時は、目玉的に進めていくところはあったと思うが、民間企業で考えると一部署の所長が辞任し、その間６カ月空白があったことに対して事業継続ということを考えれば、どのように市として考えているのか、教えてほしい。

○産業観光課

センター長だが、令和５年の４月から10月まで不在だった。前半３カ月については公募や採用等があり、後半３カ月の研修を踏まえて、10月から新センター長として赴任した。

４月から10月の間はセンター長が不在であったため、全国のＢｉｚからオンラインになるが、週60件程度のアドバイスをもらった。オンラインのため、直接話ができなかったという話はあったが、ただオンラインであったが故に他のセンター長の意見も聞けたということで、Ｂｉｚとしては支障がなかったと考えている。

また、その間に研修も多く開催しており、なんとか６カ月間はもっていくことができたと考えている。新しくセンター長が昨年の10月に着任し、相談件数も大分伸びてきている。

四国唯一のビジネス拠点である坂出で、今年の４月に相談件数が3,000件を超え、月200件以上を上回るペースで推移しているのが現状である。

Ｂｉｚの成果については、新センター長の下で、創業に対する相談が非常に増えている。また、女性からの相談が多くあり、創業実績は、今年に入ってから、新規創業者が多く増え、Ｂｉｚを活用した創業が増えている。市外の相談者の中では、坂出で起業している人も徐々に増えつつあるというのが現状である。

●委員

「４．事業の成果および今後の方針」の中で、４月から10月の半年の空白の中で、前センター長が寝耳に水で、急に辞めると言っていなくなったため、その間に次の人選や準備を始めたのか。それとも、もう少し前に、この期間からいなくなることを申し出ていたが、準備のスタートが遅れたのか。もう少しこの期間が短くならなかったのかと残念に思った。センター長がいないということはすぐに聞こえてきたが、詳細について、もしよければ教

えてほしい。

もう１点、同じく「４．事業の成果および今後の方針」の「高校生起業家育成プログラムの実施」について、これはSaka-Biz主導だったのか、それとも産業観光課の主導だったのか、そのあたりを教えてほしい。どちらでもよいが、高校生起業家育成プログラムを単発で行ったのか。どのような内容で、どの学校、どこで実施されたのか。どのような反応があったのか、わかる範囲で教えてほしい。

〇産業観光課

まず前センター長の辞任について、令和５年の３月末をもって退職だったが、２月中には辞任の申し出があったと聞いている。そのため、すぐに４月以降、対応が必要となり、公募の準備を進め、オンラインでＢｉｚの継続について進めていった。

２点目の高校生起業家育成プログラムについては、令和５年に初めて実施した事業だが、産業観光課が主体で行っている。昨年は香風園やふれあい会館を会場に、講師の先生に来てもらっている。先日も事業報告ということで、高校生たちに事業の提案をしてもらい、終了した。今年度についても現在行っているが、坂出高校や坂出商業の生徒に来てもらっている。

●会長

資料１－１の２．ＫＰＩ（重要業績評価KPI）で、事業によって生まれた地域課題解決分野の新規事業件数が０、それから資料１－２の２．ＫＰＩ（重要業績評価KPI）で、チャレンジショップの応募件数が０、ＰＰＰ/ＰＦＩ手法導入優先的検討規定の運用件数が０であり、これらが数字として挙げられているが、令和６年度までに達成、あるいは達成は難しいかもしれないが件数は上がるなどの見通しはあるか。

〇建設経済部長

事業にもよるが、Ｂｉｚを中心に地域課題の解決に合ったものをということで、この件に関しては、昨年も同じような意見があったと認識しており、その中でより地域課題を広くＢｉｚから捉えてはどうか、という意見もあったと記憶している。

今回０件と出しているが、捉え方を今後のスパンの中で変えるのもどうかということもあり、０件で出している。先ほども産業観光課長が説明した、創業相談があることや、地域課題としても地域の産業、新しい創出という意味での地域課題にも取れるとは考えてい

る。そのような取り方をすれば、ここも数値として出すことができるのではないかと考えている。

●会長

実際にはあるが、基準を途中で変えるわけにはいかないため、計上できていない、という理解でよいか。

〇建設経済部長

そのような認識で、１つ目のＢｉｚを中心とした取組に関しては、このような書き方をしている。

●会長

それから、デジ田の０件についての説明はあるか。

〇公民連携・DX推進課

チャレンジショップの応募件数が０件になっている件については、現在チャレンジショップの運営事業者が決まり、今後公募に向けて今作業しているためである。

当初は、例えばチャレンジショップを土日だけ、１カ月だけと考え、件数を５店舗と考えていたが、話を聞いていると、１年ぐらいかけてずっと行わないと、結果が出ないということで、５店舗までいけるかどうかは難しいかもしれないが、確実に１店舗はできる状況だと思っている。

あと、ＰＰＰ/ＰＦＩ手法導入優先的検討規程の運用件数については、まだ規程が策定できていない。事業の検討過程であり、今後策定した上で、庁内で運用を始めたいと考えている。

●会長

それでは、Ｂｉｚを中心とした地域内チャレンジ促進事業、デジ田さかいで再生プロジェクト、まち・ひと・しごと創生寄付活用事業について、有効であったと判断してよいか。

●全委員

異議なし

●会長

ある程度成果が出ているということで、今年度の頑張りに期待したいと思う。有効であったと判断する。ただ、条件付きとして、令和６年度は頑張ってほしいということを付け加えたい。

●会長

次に、議題（２）第２期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI達成状況について説明願う。

○事務局

（資料２により説明）

●会長

ただいまの説明について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

●委員

もし資料があれば教えてほしいが、資料２の施策３企業立地促進助成金について、目標が達成されているということだが、働くところと住むところということで、この内、坂出に住所を構えられた方はどのくらいいるのか、わかれば教えてほしい。

○産業観光課

資料２の施策３企業立地促進助成金で示してあるものについては、坂出市内の住所を有する方で、雇用された人の人数を記載しているため、坂出市民ということになる。

●委員

それであれば、新規で雇用が発生した内で坂出市民、つまり居を構えた人は何パーセントいらっしゃるかは、把握しているのか。

働く場所と住む場所を一緒に考えてほしい。せっかく多くの人が働いているため、坂出に住所を構えてほしいということで、81名は坂出市に居を構えていて、新しく就業されていると思う。その内訳として、市外からどのくらいの人が来ているのかを知りたい。

○産業観光課

そこまでの資料はないが、昨年企業を訪問した時、新規で雇い入れた人の名簿を見ると、市外から実際転入して坂出市に来て、企業で働く方もいるため、全く０というわけではない。市外からの転入も先ほどの中に含まれていると思っている。

●委員

どのくらい住みたいまちなのか、わかる物差しになるかと思って尋ねた。

●委員

この計画の終了年度、つまり第３期に向けた大事な１年という認識でよいか。

会議自体が８月の後半スタートであり、計画自体はもしかすると他の人に書いてもらうのかもしれないが、魂を込めていくのがこの委員会だとしたら、これから全部で５回、後半で５回のため、結構詰め詰めで作業していくと思っており、計画の作り方がやっつけにならなければよいと思っている。同時に、委員として、坂出で生まれ育った者として、きちんと魂を乗せる役割があると思っているため、できるだけ丁寧に見ていきたいと思っている。

ここで言うべきではないかもしれないが、同じく坂出の子ども・子育て、これは全国的にもだが、このタイミングで子ども・子育ての計画のスタートも来年である。私もいくつか自治体に関わっているが、全体的に坂出市の委員会のスタートが遅い。委員会がお飾りのようなかたちで、委員会で委員の意見を聞いた、というようなことだと、私としては納得がいかず、もう少し真剣に揉んでいきたいという思いがある。この委員会は異なるが、子ども・子育て委員会の日程調整はなかったため、第１回目もかなりまだ遅い、後ろの方ではあるが、それも予定が合わなくて行けず、すごく忸怩たる思いであり、坂出のために言いたいことはたくさんある。言いたいこととやりたいこともある。言うばかりではなく、やる責任も感じていて、思っているが、置いていけぼりであり、時間切れのようになるのは、悔しいと思っている。そのため、思いの丈を伝えた。

もう１つは、KPIの確認ということで、実施していかないといけないということと、５年の振り返りを次の計画に生かしていかないといけないという両方の観点で言うと、例えば資料２の9ページの（４）すべての人が活躍できる環境の整備の施策27のKPIで、審議会等における女性委員の割合の目標値が、令和６年度で30％となっている。香川県の計画が上位計画になると思うが、香川男女共同参画プランの中で、県内の審議会の委員40％以上

が目標になっている。県がそれを目標にして動いているが、「坂出は田舎やけん、もうちょっと後ろでええわ」ではなく、できれば少し背伸びしてでも、それに合わせていくように、県や他の自治体とのすり合わせを目標にしないと、自分の自治体だけを見て目標設定していたら、目標数値が低くなってしまう可能性がある。その下の施策28管理職等への女性の登用も、ずっと言い続けていますが、係長以上を管理職と呼んでいる。他の自治体、これは県だけではなく、私は丸亀市、高松市にも関わっているが、大体課長級以上を管理職と呼んでいる。ずっと言い続けていても係長級以上で、なんちゃってで、誤魔化すことはやめてほしいという気持ちがあるため、そのような部分も見てほしい。擦り合わせをしてもらえたら嬉しいと思っている。

今回の資料を丁寧に読み込んだが、例えば３ページの施策３のKPIで、市ホームページ全体のアクセス数について確認したい。私は近隣の自治体で、同じぐらいの人口規模の自治体はどこかと思い調べたが、玉野市が坂出より人口が多く、広島の三次市がちょうど同じぐらいの人口規模だったと思う。それらの自治体のホームページのアクセス数はどれくらいかと思い見てみると、坂出市の目標数値より高い数値が出ていた。坂出市の過去のアクセス数を比較して目標数値を設定するというよりは、他の自治体で、人口規模が同じぐらいのまち、東北や沖縄と比べるとなると難しいかもしれないが、中四国の自治体と比較して、そもそものスタート地点がよく頑張っているのか、少し足りていないのか、その上で目標設定をしていかないと、目標数値を見誤るのではないかと感じた。そのため、例えば、３ページの施策３のＳＮＳを活用した観光情報の発信で、KPIの（一社）坂出市観光協会のフェイスブックページのフォロワー数を1,200という目標数値にしているが、ここと人口同じぐらいの広島県の三次市であれば3,515であり、３倍ぐらいのフォロワー数がある。そのため、このようなギャップを調べてほしい。次の計画策定に向けた意見として伝えた。

〇政策部長

まず、今回の総合戦略の改訂にあたってスタートが遅いのではないかという意見について、率直にお詫び申し上げる。もう少し早く取り掛かればよかったと思うが、この時期になったことを心からお詫び申し上げる。

様々な意見をもらう中で、特に審議会の女性委員の割合や管理職の割合について、第２期の総合戦戦略の策定の際に、このような考え方で目標値を書いている。今年度第３期に向けて様々な意見をもらい、議論してもらう中で、当然そのあたりも現状に合わせて、特

に坂出市の実績値のみだけではなく、他地域、他市との比較も考慮する上で、目標値の設定を十分に考えていきたいと思う。事務局としても委員の方々の意見を聞きながら、そのあたりを十分反映したいと思っている。

●委員

ここからの５年間、坂出市の駅前も変わり、非常に大事な時期だと思っており、できることは市民の１人として何でも行いたいという思いのため、お願いしたい。

●委員

同じく施策７のＳＮＳを活用した観光情報の発信について、フェイスブック単体なのか。インスタグラムなど、今私世代、私は50歳になろうかという世代だが、私世代でももうフェイスブックから随分離れている。主婦が手にして、少し情報が見たい時はインスタグラムやラインで情報を得ることが多いと思う。更に若くなると、私は若い子は何を使っているのかはわからないが、私たち世代でもインスタグラムやラインになっているため、フェイスブックは若干時代遅れだと思うのが、私の率直な意見である。先ほどの1,200件については如何かと思う。世間のインスタグラムフォロワー数が何万人と出てくる中の1,200件というのは、あまりにも少ないというのが私の印象である。商工会議所はインスタグラムを行っているが、そのような組織からアイデアをもらってもよいと思った。

４ページの施策10空き家バンクについて、新聞などでも話題となっているが、地区としては坂出の駅前の周辺が優先になるのか。私は林田に住んでいるが、白峰中学校あたりの空き家も対象なのか。それとも、坂出駅前開発の方が優先になっているのか教えてほしい。

また、林田繋がりにはなるが、バスなどのコース変更に関して、駅前のお稽古事に通う子どもや附属小に通っている子どもは、バスに乗って登下校する。高校生や坂出駅を使って登下校する子どももそうだが、駅に行く手段が、どうしても少ない。最初はバスで通わせるが、本数があまりにも少ないため、登下校時間だけでもどうにかならないか。他の子どもは自転車で通っているが、夏休みは熱中症気味になったことがあるようなので、予算の加減やお年寄りも大事かもしれないが、学校や駅前を栄えさせるには、林田もそんなに子どもが少ないことはなく、林田自体は数が減っていないため、林田や加茂、松山地区など、子どもをどのようにして駅前まで連れてくるか、今私も含めて、子どもを駅前に連れて行こうと思うと、送迎しかない。車で送迎するしか手段がない。子どもが交通機関を使う練習にもなり、子どもがバスを使えるような、何か手段がないかと感じた。

もう１つ、ラジオ体操について先月教育委員会でも話したが、14ページの施策48ラジオ体操普及事業の、KPIのラジオ体操普及拠点数は、365日開ける広場のことを指すのか。林田のことで申し訳ないが、林田の子ども会自体は、きちんと夏休み中にラジオ体操を行っている。そのため、そのような部分も評価に入れてほしいと、親として思う。お年寄りが365日ラジオ体操を行っている場所を広場と認定することも大事だが、子どもたちがきちんと夏休みにラジオ体操を行っていることも入れてほしいというのが、親としての気持ちである。

○産業観光課

ＳＮＳを活用した観光情報の発信の質問について、これは第１期の計画から数字が入ってきたと思うが、フェイスブックのみのフォロワー数で、この当時も現在も件数を目標値としているが、時代の流れにより、フェイスブックは過去のものになりつつあるため、第３期の計画ではインスタグラムや別のＳＮＳの数値も含めながら、目標値の設定を見直したい。

○政策課

空き家バンクについて、空き家バンクの登録に関しては、優先的にどこからということはないため、それぞれ登録することはできる。現在20軒前後の物件の登録がある。20件の中でも、市街地の方が多い傾向にはある。なるべく皆さんに知ってもらうということで、固定資産税の納税通知書の中にチラシを入れるなど、制度の周知を図っている状況である。

○政策部長

バスの話について、委員からもらった意見と逆行するが、琴参バスが７月初旬に、運転手不足と2024年問題で、路線バスの運転手の確保ができなくなったため、市内の路線バスの３割程度を減便するという話があった。それは坂出市に限らず、昨年高松市が４割ぐらいバスを減便した。琴参バスが路線バスを運行している坂出は当然だが、丸亀、綾川のあたりも、すべて３割程度の減便をしたいと話してきた。もちろん行政からすれば、引き続きお願いしたいが、法律を犯してまでも続ける話にはならないため、致し方ないということで、琴参バスの申し出を受けたという経緯がある。

地域住民、学生に限らず高齢者、いわゆる交通弱者の移動手段の確保は、行政に課せられた課題である。バスが減便になるため、そのまま何もせず手をこまねいていることにも、

当然甘んじる訳にはいかないため、現在バス事業者とデマンドタクシー、乗合タクシーをどうにかして有効活用して、できるだけ地域住民の足の確保ができないかということで、話をしている。琴参バスの減便は10月１日からになるため、それに向けて、今行政と事業者が話を詰めている状況のため、理解してほしい。

〇生涯学習課

ラジオ体操については、基本的には健康増進、または地域のコミュニティ構築であり、365日実施するということで運営している。

たまたま、お年寄りばかりにはなっているが、当然夏休みについては、７ヵ所開設しているが、そこそこで子どもたちが参加している状況である。小学校においては、各地区で様々、ラジオ体操の週間があり、前１週間と最後の１週間に行っているという話も聞いている。認める、認めないという話になると、「では単発で行っている場所も含めるのか」という話になり、厳しいかと思うが、我々としても、例えば協力できる部分であれば、ラジオ体操のカードを渡すことや、スタンプを渡してまろのスタンプを押してもらうことなど、そのような協力はできると思っているため、また呼んでもらえたらと思う。

●委員

５ページの施策12のKPIの就職フェア参加者のうち市内企業への就職者数と、それに絡んだ11ページの施策33のKPIの就職説明会等出展支援事業補助金の利用件数について質問したい。

今どちらも、もちろん全国的にだが、私も坂出に来て、どの事業者・会社も人の問題が課題になっていると思う。そのような中で、なかなか採用できないことで悩んでいる。新卒は全然採用できず、転職者も中途採用というかたちで何とか採用している、という声をいつも聞いている。そのような中で、就職フェアも非常に大切なイベントだと思う。

だが、令和５年度の実績で、参加会社は前年よりは若干増えたと思うが、参加者の学生が減っているように見えた。むしろ売り手市場という話もあるが、PRの部分がどうかと思う。私もJRの電車の中でバスツアーをされるというのは見て、力を入れていることは承知しているが、それに対する成果という部分で言うと、残念な数字になっていると思った。それを今後どうするのか教えてほしい。

〇産業観光課

就職フェアについては、年々参加者の人数が減っているのが現状である。令和５年度については、新規の採用者自体については、中途採用の方も参加いただけるが、それでも少ない数値となっている。昨年はイオン坂出で、就職フェアを開催してもらったが、学生が集まるような、香川大学内で実施できないか等、そのような話ももらったことがある。そのため、広報活動を含めて、学生が集まる場所に赴く方法も今後検討していきたい。

●会長

そのことに関連して、香川大学に来るのも１つの方法だが、坂出出身で新卒ではない、例えば若い人であれば成人式の前後など、こちらにいる時の方が参加しやすいと思う。東京で就職して、「あんまりよくないな」と思っていて、転職して会社を辞めると、とりあえず非正規雇用で働かざるを得ない。その時、こちらに戻ってきて、例えば盆や正月前後など、その時に次の仕事に対する情報などを得られるとよいと思う。そのようなことは行っているか。

〇産業観光課

就職フェアの案内は、広報誌やチラシでさせてもらっているが、正月の時に一応広報をさせてもらっていて、子どもが帰って来たら親御さんから話してもらう機会をなるべく積極的につかんでいきたいと思っている。

●委員

10ページの施策30のKPIの日本語教室の学習者数について、数値を見ると、感染症の５類移行明けは、数値も良い雰囲気で増えてきており、このままの経緯で見守ることがよいかと思う。

だが、課題および今後の方針等の中で、前回も同じような文言であったかと思うが、日本語ボランティアと連携して、既存学習者への日本語教室云々とある。日本語ボランティア、これ以外にもボランティアに寄与して、助けてもらっている項目もあると思うが、このボランティアというものも、項目によってボランティアの人々の善意で賄えるものと、ある程度専門性を持って対処しないと全く効果が出ないものに二分されると思う。日本語教育に関しては、多文化共生という名の下に、ある程度専門性の高い人に関して、ボランティアでずっと行ってほしいということは、既に限界が来ている。他の自治体、他の区域を見ていつも言われるが、これには多少ボランティアというくくりを外して、坂出市独自

の予算立てをして臨む方がよいと思う。そのようにしないと、指導者にしても人材が本当に足りず、高松でもそうだが、近圏、特に中讃地区はエキスパートを求めており、限界があると思うため、日本語教育に関しては、もう少し見直しをかけてもらえれば、意欲的に坂出市以外の人も坂出市でそれに携わりたいという人が出てくると思う。

これは他の地区からもよく聞くことであり、自分の住んでいる場所ではずっとボランティアでここまできているが、それ以外の場所で、多少なりとも報酬が発生する場所であれば、香川県内であればそのような場所に行きたい。そしてまた、そのようなことを教育現場で、アカデミアでそのようなことを専攻しても、こちらで仕事や生業として成り立たないということは、もったいないと思う。そのような専門性が高い人を、雇用というかたちで、今後、そのような実例ができるのかはわからないが、そこは坂出市が先進的な取組として、人員確保のために取り組んでよいのではないかと考えている。また一考してほしい。

●委員

１ページの施策２のKPIのJR坂出駅の1日あたり乗車人員に関連して質問がある。私も仕事柄出張が増える状況があり、坂出市に近いため、できるだけJRを使って出張に行きたい。だが、今イオンがない状態の中で、ほとんど駐車場が満車である。一応市営駐車場も増やしてもらい、地下もあるが、近隣の駐車場に比べて利用料が非常に高い。何が言いたいかと言うと、坂出市に住んだメリットを考えると、やはり坂出駅を擁するのであれば、ビジネス拠点としても様々な移動があるため、せめて市民ぐらい優遇されるような駐車場制度はないのかと思った。停められるのはよいが、本当に利用しにくい状況があり、わざわざ高松空港まで行かないといけない状況もあったりする。そのような部分も戦略的に考えてほしい。

まちの賑わいを作るのであれば、坂出市のまちについて、「坂出に寄って食事しよう、何か寄ろう」という場所が非常に少なく、特に主要幹線道路を車で走ると、店がないのが坂出市である。なぜ市に店がないのか、私も調べたが、下水道が全く通っていない場所がたくさんあるためであった。特に33号線の周りは、駅前近辺でも通っていない場所があり、特に坂出警察署の前は全くない状況である。店を出店したくても、下水道がないため出店できないという話を聞いたこともある。そのようなことも含めて、戦略的に考えれば、主要幹線道路ぐらいは店が出せるような環境を作るのであれば、私は下水道の整備が急務だと思う。特にさぬき浜街道沿いは一応通っているというのは資料では見たが、先ほどあったように、それ以降の川東の方は全くないような状況がある。田んぼも大事だが、せっか

くさぬき浜街道も4車線化になり、直線的に坂出北インターチェンジをフルインター化して活用するのであれば、活用も利便性も高まってくると思う。そこで観光客や県民も含めて、店がなければ坂出市に遊びに来ることもなく、お金を使うこともないと思う。そのことも含めて、是非とも考えていくべきだと私自身感じている。これは資料と関係ないことかもしれないが、そのように感じた。

●委員

日本語教室の話があったが、坂出市に海外の方が増えており、夫の会社にもモンゴル出身の社員が入ってきている。日本語は勉強中で、英語も話せないという方が来た時に、良いことを坂出は行っていると思い、日本語教室のホームページを見た。全部の日本語、漢字にもルビを振っていて、親切そうに見える。

ただ、「日本語を母国語としない、在住外国人の日本語学習を…」と書いてあり、日本語自体が難しすぎると思った。「日本語を母国語としない、在住外国人…」とあるが、外国人が日本語を勉強していく機会もそうだが、坂出市民自体が外国の人に接する時に、やさしい日本語を使うように工夫しないといけないことをとても痛感している。わざわざ在住外国人と言わなくても、外国に住んでいる人と言ってあげたらわかるのに、このような不親切さの部分があるため、やはり当事者や関わっている人にホームページを見てもらい修正しないといけないと思う。

●会長

KPIの達成、あるいはそれをテコにした目標達成、この事業の１つ１つの事業、全体としての戦略的な目標の達成がある。私の感想は、KPIの項目が多すぎて、何がまち・ひと・しごとの創生に関わり、一番効くのかと思った。そのあたりを次年度もう少し精査して、絞り込まないといけない気がする。どこに力を入れないといけないのかということに、坂出は力を入れることができるようになる方がよい、というのが私の感想である。

●会長

次、議題（3)）第２期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略の一部改訂について説明願う。

○事務局

（資料３により説明）

●会長

ただいまの説明について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

●委員

会議の進行として、時間配分の権利は議長にあると思うが、私たちにも大体このような時間帯で、このような話をするということを伝えてほしい。そして、事前に資料をもらえれば、タイトであるため難しいとは思うが、資料を読み込み、意見をまとめたいと思う。本当は、事前に伝えて進めないと、ゆっくりディスカッションする時間がないと思っている。

●会長

他にないか。

●全委員

なし

●会長

それではお諮りする。坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について、資料３のとおり了承することとしてよろしいか。

●全委員

異議なし。

●会長

ご異議なしと認め、了承することとする。

続いて、議題（４）坂出市人口ビジョンの更新に見直しについて説明願う。

○事務局

（資料４により説明）

●会長

資料４－１の２．人口動態の状況の（３）人口動態で、転出者数が減っているとのことだが、実は18歳人口が減っているため、その時に出ていく人が減っており、必ずしも喜んではいられない気がするがどうか。

〇政策課

そのようなこともあるかと思う。人数の推移の分析を十分していきたいと思う。

●会長

年代別にチェックすることが非常に重要だと思う。

もう１つ注文がある。2060年までに何が起こるかというと、おそらく南海トラフ地震が起こる可能性が高いと考える。今後30年以内、70から80％と言われているため、2060年までに南海トラフ地震は起こると考えられる。人口の予想カーブも、自然災害など突発的な事変を想定しておらず、入れていない。だが、今度行う時は、おそらく南海トラフ地震が起きた時の、例えば坂出市の中心市街地は低くて津波も来る。それから、塩田跡のため液状化も起こる。そうすると、一旦その場所が一時的に住めなくなる。そして、住めなくなった人たちが、郊外かどこかに行くかもしれない。そのようなことも考えておかないといけないと考えている。好まざるシナリオも考えて、その対応を準備しておかないといけないと思う。そのことも考慮してほしい。

続いて、議題（５）まちづくりワークショップについて説明願う。

〇事務局

（資料５により説明）

●委員

様々な意見が今までもあり、ワークショップでも出ると思う。問題は、予算規模はどのくらいなのか。意見は出るが、予算の実行性がゼロだという意見が出ても空しい。予算的にどのくらいのものなら可能なのかという示しがないと、先ほど、下水道の整備の話があったが、実現性はどうなのかというのもあって、逆に合併浄化槽を設置して補助を出すのであれば、可かということもあると思う。そのため、予算規模の話がないと、話をしても

しょうがないと思うので、そのあたり示してもらえるのか。

〇政策部長

確かに委員指摘のとおり、予算がないまま施策を進めることが無理なことは、我々としても承知している。予算が先なのか、意見をもらって予算に反映するのか、そのあたりは行政としてもすでに予算が限られているため、優先順位を考慮しながら、予算に反映していくという考えで進めたいと思う。

●委員

ソフト面で何か動けることを考えるワークショップだと実現性があると思う。

坂出市は残念ながら、全国から人が集まり、県内からも人が集まる機会が非常に少ない。

その少ない機会を、ぜひ有効活用することを考えるワークショップがあればよいと思う。おそらくスポーツをしている人だと、日本の観客が掃除をして帰ることが世界に広められたと思う。坂出であったイベントで、人が集まったイベントで、行政の人が一生懸命片づけてくれていることは本当にありがたいことであるが、そうではなくて、参加者自身が綺麗にして帰ってくれる雰囲気やイメージをつくることも大切だと思う。

そのため、イベントを行って人が集まる時に、そのようなかたちで、市のイメージを上げられるようなことを、若い人も含めて考えてほしい。そうでないと、勝手に市民の人たちが来て、住みやすい場所だと思って住む人が増えるのではないかという考えがある。予算規模を、編成できない部分を、ソフト面で解決することができるような方法を、私自身は思っている。

〇政策部長

確かにハードだけでなく、むしろ人口減少社会の中で、いかに有効活用して、まちづくりに生かせるかということは大切な視点になると、我々としても認識している。今、頂いた意見を踏まえながら、次期総合戦略を検討するとともに、まちづくり基本構想の改定においては、今後10年間のまちづくりの方向性を審議していく年でもあるので、様々な方から頂いた意見を取り入れながら、作成していきたいと考えている。

●委員

予算の関係で教えてほしいことがある。まちづくりの基本構想、例えばまち・ひと・し

ごとの関係、ワークショップなど、まちづくりに関して議論する機関、諮問機関が非常に乱立している。

そこで、市として１本に決める方向の中でいくと、まち・ひと・しごとは国からこのようなものを立ち上げろと言われ、この前も知事会で揉めた。東京一極集中ということで、地方の知事からたくさん声が出ていたという状況だった。

しかし、この流れは全く変わっていない。何を今行わないといけないかと言うと、今様々な場所で、同じような、市ごとにまち・ひと・しごとの創生会議を行いながら、同じような意見を出し、予算取りが行われているが、私は予算のぶん捕りあいだと思っているため、例えば、カーボンニュートラルポートにしても構想があったが、目新しいことと、必ずこれを行えばまちが盛り上がることは、具体的な指示を出さない限りは、国は予算を下ろさないと、私は感じている。もしくは、ただ単に行いなさい、やっつけで行うと、ぼんやり予算を付けて、その中から少ない予算の中で行いなさい、と国の指針がそのように出しているのか。当初の思いはそうではないと思う。非常に困っている、ではこういうことを行いたい、そのためにお金をもらいたい、という方針を決めて、国に対して予算を下ろしてもらう流れになると思う。それは間違いないか。確認したい。

〇政策部長

もちろん国の補助制度を活用することになると、将来的なビジョンも踏まえて、このような施策を取り組むことによって、このような効果がある、と明確に示さなければ、国の方も事業を採択してもらえない。

我々も施策に取り組む中で、国の財源の活用を視野に入れながら、どのように施策を進めていくべきかを十分検討していくべきと考えている。

●委員

先ほど委員が言われたように、我々もこのような議論をしながら、言いっぱなしで終わっている。言ってやった、でも何もなかったとなることが非常に申し訳なく、不甲斐ない気持である。できるだけ事業として、これを行って、これは成功したか失敗したか検証できる状況にする。一歩踏み出して実現していく、何かの事業を実現させていくことを行っていかないと、非常に事業がある中で、評価はしているが、おそらく同じようなことを行っているため、坂出市として１本方針の中で、これは実現しないと坂出市がダメになる、これを行えばよくなるということを、様々な諮問機関はあるが、どこかに１つまとめるべ

きだと私は思っている。それを作っていかないと、私は将来坂出市の展望は非常に難しいと思う。

何度も言うが、私も労働組合で坂出市民のため、坂出市に対して想いを持ちながら取り組んでいるが、本当によくなるポテンシャルがここにあることは、私は何回か発言している。工業地帯もあり、駅・港も近く、高速のインターチェンジも近くなる。そのポテンシャルがありながら、何も活かしきれない状況がある。これから作っていくのではなく、決まってからではなく、決まる前から想像しながら行うべきことはたくさんある。例えば、さぬき浜街道の4車線化の中で、トンネルを超えて何もない。それはなかなかいじれない部分もある。しかし、私は松山農協を道の駅にして、県や国から費用をもらい、くるくる鳴門など、あのようなかたちで大きな道の駅を作り、人が集まるようにすれば、人も来ると思う。

そのような発想などを具体的に考えていかないと、ぼんやりと出しても、予算が少ない中で、なかなか市独自で行うことではできない。

不採算事業は行政が行うべきだと私は思っている。いわゆる儲かる事業は民間が行っている。民間が行えないため、今回のバス事業も撤退する。市としては本来行うべきである。しかし、今はできない。市にお金がないため、民間が撤退してから行わない。民間が行えず撤退していることは、私は行政としてしっかり行うべきだと思う。行うことにより、今後高齢化社会の中では、足がない、免許も返納しないといけない、安心・安全に住める坂出市にするには、どのようにしないといけないのかを考えないといけない。答えは出ているが、お金はない。そのような議論に１歩踏み込めない状況があることは、私は残念で仕方ないと思う。ぜひともそのような思いで行ってほしい。

今ゼロカーボンの中で、様々な動きがある。坂出市にしても、三菱ケミカルが事業を三分の一撤退する状況である。

これはよいことである。国としてはよいことである。坂出市では様々なことが起こる。産業の喪失、そして雇用の喪失である。新たなエネルギーで得る創出もある。

しかし、様々な状況が起きる中で、指をくわえて待っていてはいけない。民間任せであり、行政がしっかり情報収集する必要がある。そのような情報収集をする中で、市としてもゼロカーボンシティを目指しているのであれば、そのような事業に転換する、そのような事業を創出する状況になれば、行政としても雇用の責任をぜひとも取る、取るという言い方ではないが、しっかり考えて、地元に残ってもらう施策を打ち出さないといけない。

労働者が路頭に迷わない状況を作ることも含めて、坂出市に住んでもらうためには、私

はこのような議論も、しっかりとした情報提供も、しっかり発信もすべきだと思っている。ざっくり話したが、そのような問題もあることも把握しながら市政運営してほしいと思う。

●委員

ワークショップについて、ワークショップは本来何回か行わないと意味がないが、誰がファシリテーターをするのかいうことが１つある。

また、ファシリテーションによって意見の引き出し方が変わってくると思う。もう１つは、未来の「住みたいまち」について考えよう！というテーマは、漠然とし過ぎている。

高校生や若い世代の人は、どうしても自分の見えているものの中だけで考える。例えば、スターバックスがあったらよいなどであり、前回もそのような感じだったと思う。目の前の事だけに終始してしまうが、それを聞く意味もあると思う。

そのため、未来の「住みたいまち」について考えよう！というテーマと、もう１つできれば具体的に、これから駅前が開発されてくるため、駅前にどのような機能がほしいかというテーマのワークの２部構成にするのはどうか。例えば、そちらも聞く時間があれば、それは具体的に今から出来上がってくる時に、若い高校生たちが社会人になった時に、「自分があの時言った意見が、ここに反映されてるんじゃないか」と、意見を言ってよかったと思ってもらえると思う。実現していくのが目に見えてくるが、漠然と聞くと、「どこに反映されたのかちょっとようわからん。言うたけどなんにも叶えられていない」となるよりは、せっかく計画があるのであれば、具体的なことを聞く時間を設けてもよいと思った。

〇政策課

まずファシリテーターの件だが、実は来年度の基本構想の策定に向けてコンサルタントが先日決定した。そのコンサルタントの方で、このファシリテーターをしてもらう予定になっている。市役所で実施する場合、率直な意見が出ない場合もあるため、そういった観点からもコンサルタントの方で意見を引き出してもらいたいと思っている。

先ほどもらった駅前はどんな機能を持たせるかといった件についても、また今度ワークショップについて業者と話し合うため、検討していきたい。

●委員

今のワークショップの実施要項、開催概要について質問がある。坂出市内の４つの高校と香川大学の学生で、計20名という数字が出ている。ということは、坂出市内の高校４

校で１校あたり３名ずつになるが、これは学校選抜なのか。自主的に手を挙げた生徒が参加するのか。それはすでに決まっているのか。

〇政策課

今のところ市が高校と相談していて、学校にお願いして、学校選抜でお願いしている。生徒の意見を聞いてもらって提出してもらう予定である。

●委員

１カ月後のため、新学期早々に決めないといけないと思うが、先生が「この子を出したら間違いないだろう」という子を３人ずつ選ぶのかもしれない。だが、丸亀の事例を言うが、丸亀のマルタスで学生たちが自主的に意見を交わす中で生まれた、丸亀大文化祭という事業がある。これは大人が背中を押した、後押しをしたのだが、結果的に丸亀市内の高校生が全部自主的に発案し、運営も自らが行うかたちになっている。手を挙げるような子がいるかいないかわからないが、一般的に学校から声をかけて、「出たい奴おるか」ということを第一段階として、誰も手が挙がらなければ学校選抜でもよいと思うが、そのような入口にしてもらえたらよいと思う。最近の若い子でやってみたいという子がいないとは言い切れない。そのような可能性も無視しないでほしいと思う。

そして、もう１点質問がある。一般対象の２回目の公募だが、これは広報の方法、どのような方法で発信するのかはわからないが、このようなものをまちづくりに興味がある人、市内の人というと、似たような人が、毎回いろいろな課が出す公募型の意見交換会の時に出てくる恐れはないか。坂出の事情がわかれば教えてほしい。

〇政策課

まず９月30日、１回目の会議について、各校に推薦してほしいとお願いしているが、今話を聞く限りでは、かなり自主的にやりたいと手を挙げている生徒がいる状況だと聞いている。特に坂出第一高校は、生徒会の活動が県内でも一番活発だと聞いている。50名ほど生徒会に生徒がおり、前向きに参加したいという生徒が多くいるため、その中でできる限り自主的に参加してもらえるようにお願いしたいと思っている。

２回目の公募だが、これに出る人への広報をどのようにしていくかについて、市の広報など、そのあたりはもちろん掲げていきたいと思っている。言われたように、声をかけていって、どれだけ集まるのか、関心のある人だけが出てくるのではないかという指摘もあ

るため、委員にも協力をこちらからお願いして、できるだけ幅広い、子育て世代の人や若い人が見るようなところで、市も広報に動いて、できる限りのことをしたい。元々関心がなかったが、参加してもらえるような人も募っていきたいと思っているため、ご協力をお願いしたい。

●委員

コンサルタントに、そのあたり実績もあると思うため、相談すればよいと思う。そのコンサルタントだが、冒頭でも市長が言ったように、最近決まったと聞いた。これは公にすることはあるのか。

〇政策課

坂出市まちづくり基本構想の委託業者については、もうすでに公表している。この事業に関しては、ランドブレイン株式会社に決まり、その会社にお願いすることになる。

冒頭市長からあった、事業者が決まったという話は、駅周辺整備になるので、別の話である。

●会長

２回目の公募だが、どうしても市内に住んでいる人ばかりの意見だと、外の意見は入りにくい。坂出市出身で外に出ている人も、できたらメンバーに加えたらよいと思う。本当は帰りたいが、ここが問題だ、という話ももらえるかもしれないため、外の意見も大事だと思った。検討してほしい。

〇政策課

先日成人式の実行委員会が開催され、市外の人が集まった会があった。そちらに政策課の方で参加し、「このような会があるため、ぜひ参加してほしい」と、声掛けは行った。

●会長

その他で何かないか。

●全委員

なし

●会長

それでは私から。

坂出の地理的特徴だと、先ほど委員からあった、川向こうがある。デジタル田園都市構想で、デジタルというのは、国は全国ほぼ同じようにあるとは言っている。そうすると、坂出の強みは、中心市街地が非常にコンパクトこともあるが、実は川向こう、林田、加茂など、そのような場所に田園地帯が広がっていることが、私から見ると、実は災害に非常に強みがあると思う。

先ほど、下水道の整備が遅れているという話があったが、遅れていることが地震の時強みになることがある。下水道は、末端の処理場が被害にあうと、途中の管路が液状化などで使えなくなると、ずっと流せなくなる。

だが、合併式の浄化槽で各家庭にあり、それが水路に流せるようであれば、下水を流すと使えないため、水路に流せるようであれば、災害時のトイレとしてこれほど強いものはない。平時の視点も大事だが、非常時の強みも、2060年ということのため、考えてほしい。

４．閉会

以上で、坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を終了する。